

第8回国立公園満喫プロジェクト有識者会議

議事次第

日時：平成30年6月29日（金）

13：30～16：00

場所：航空会館 702+703 会議室

1. 開会

2. 議事

（1）国立公園満喫プロジェクトの実施について

（2）その他

3. 閉会

配付資料一覧

資料 1 中間評価の流れ

資料 2－1 有識者会議委員による先行 8 公園視察

資料 2－2 先行 8 公園における中間評価(自己評価)

資料 3－1 国立公園満喫プロジェクト 中間評価(案)

資料 3－2 先行 8 公園以外の公園での主な取組

参考資料 1 国立公園の宿舎事業のあり方について (案)

参考資料 2 国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム
企業等一覧 (平成 30 年 6 月末時点)

参考資料 3 国立公園別訪日外国人利用者数推計値等

参考資料 4 国立公園満喫プロジェクト有識者会議 委員名簿

先行8公園個別

プロジェクト全体

中間評価の枠組み・質の指標等議論

3月12日
有識者会議

有識者会議委員先行8公園視察
地域協議会を経て中間評価(自己評価)

~6月

先行8公園の中間評価報告

プロジェクト全体の
中間評価案の提示

6月29日
有識者会議

中間評価確定

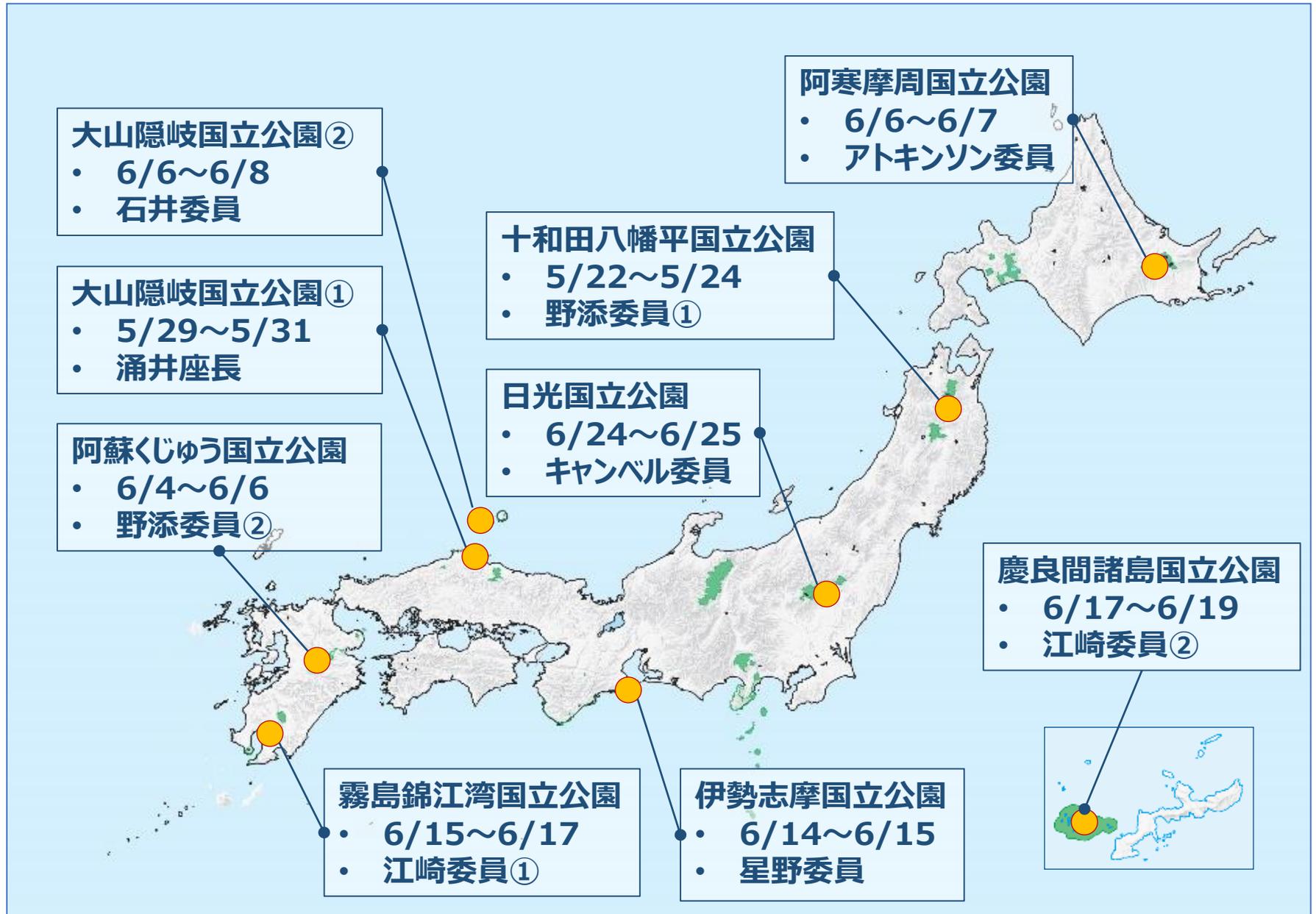
満喫プロジェクトの
今後の進め方の見直し(年次計画等)

8月頃
有識者会議

ステップアッププログラムの見直し

平成30年内

有識者会議委員による先行8公園視察





先行 8 公園における 中間評価(自己評価)

阿寒摩周国立公園 満喫プロジェクト進捗状況

赤字は実施済の取組

火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する

H29.8 公園名変更
(数値目標) ~ 訪日外国人利用者数 6.3万人(2015年) → 15万人(2020年) ~

特徴①

原生的な自然で過ごす「上質な時間」

眺望や居心地のよい宿泊施設、展望施設、カフェでの滞在、それぞれ特色の異なる温泉での保養など、原生的な自然の魅力を実感しながら上質な時間を過ごす

-  H30夏の川湯エコミュージアムセンターへの民間カフェ導入(試行)を目指し、内部改修工事を実施中
-  阿寒湖畔における富裕者層をターゲットとした宿泊施設の誘致に向け、地元市及び民間において検討着手
-  川湯温泉街の再生に向け、地元町において再整備計画を策定。環境省において、廃屋1棟の撤去を含めた跡地整理に向け、H30から基本設計業務に着手

特徴②

原生的な自然の「新たな活用」

カヌーやトレッキング、バードウォッチングなど、原生的な自然への新たなアプローチも含めたローインパクトなアクティビティを通じ、自然の雄大さやパワー、生きもののたくましさに直接ふれる

-  マリモ観察ガイドツアー実施に向けて、地元関係者や研究者からなるPTを設置 (H29,7) し検討を開始。H30夏以降にツアー試行開始予定
-  阿寒湖南岸における新たな歩道 (H32整備予定) や雲海が楽しめる歩道の再整備 (H29整備) など、**上質な利用のための施設整備の推進**
-  オンネトー湖岸の静かな環境を生かしたガイドツアー、キャンプ等利用形態の拡充 (H32) 等、個人旅行者の受入環境整備に向けた検討を開始
-  地域の魅力を生かしたロングトレイルの設定に向けた検討を開始
-  日本旅行業協会等と連携し、**ファミトリップ**を実施 (H29年度に3回)

特徴③

「アイヌ文化」の体感

古くから伝わるアイヌの祭りや伝統文化など、我が国の先住民族であるアイヌの文化を体感する

-  観光庁との連携の下、阿寒湖温泉において「**アイヌアートまちなかミュージアム**」を推進中
-  アイヌ文化を基調とした**夜のデジタルアートイベント**の開催 (H31から)



アイヌコタン



ビューポイント

公園全体の取組



屈斜路湖

川湯温泉・硫黄山



阿寒湖



摩周湖



オンネトー・雌阿寒岳



国立公園区域



ビューポイント

オンネトーからみた雌阿寒岳と阿寒富士



阿寒湖でのカヌーツアー

至 釧路空港

新たな魅力地点につながる歩道

阿寒摩周国立公園

摩周第一展望台からの眺め



阿寒摩周国立公園 満喫プロジェクト 中間評価

目標の達成状況

利用者数の目標達成に向け、加速化が必要

●総評

ステップアッププログラム2020に記載された74の取組のうち、取組終了が24%、取組中47%、検討中24%、未着手4%となっており、取組自体は順調に進捗。

ただし、利用者アンケートや有識者からは多言語対応の充実、情報提供の分かりやすさを求める意見や指摘あり。

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 15万人)

2015年	2016年	2017年
6.3万人	→ 5.8万人	→ 5.7万人
(8.9%)	(10.2%)	(11.2%)

()は標準誤差

●その他SUPで独自に定めた目標

阿寒摩周国立公園及び周辺地域における旅行消費額の向上

○質の指標 (平成29年度)

- 国立公園での訪日外国人旅行消費額：93,449円
- 外国人平均宿泊日数(公園内)：1.8泊
- 外国人平均宿泊日数(周辺含む)：5.4泊
- 国立公園での外国人リピーター率(2回目～)：5%
- 国立公園での外国人リピーター率(3回目～)：1%
- 満足度 大変満足：35.5%、満足：50.7%
やや不満、不満、大変不満：1.3%

これまでの成果

関係11市町において外国人宿泊者数が1.12倍に増加

特に、欧米豪系外国人宿泊者数は1.55倍に増加

※H29年度とH27年度の比較

●エコミュージアムセンターの改革 (Wi-Fi導入、映像展示改修)

川湯エコミュージアムセンターを訪れる外国人旅行者は1.2倍に増加
特に、欧米豪系外国人は1.38倍に増加

●オンネトー・雌阿寒岳地区の魅力創造

環境省、北海道、足寄町が事務局となり、住民主体の「オンネトーの魅力創造委員会」を設立し、オンネトー野営場を中心に当地区の魅力発信について議論を深化中

●アイヌアートまちなかミュージアム構想の推進

阿寒湖畔エコミュージアムセンターにおける展示を含め、阿寒湖温泉街全体でアイヌアートの活用を推進中。また、アイヌ文化を活かした景観形成を推進するため、地域で一丸となって取り組むべきことをまとめた「アイヌ文化を活かした景観デザインの手引き」を作成

●2次交通の充実

阿寒エアポートライナー(釧路空港～阿寒湖温泉を結ぶバス)の実証運行では、期間中3,631人の利用者があり、うち外国人利用者は1,371人(全体の36.3%)

加速化・強化が必要な取組

利用拠点をストレスフリーな空間に

アンケート調査の結果から、多言語対応、情報の収集・活用のしやすさについて、取組を優先することが満足度の向上に有効であることが示唆。また、関係機関・団体との連携強化も不可欠

●多言語表記の充実

川湯エコミュージアムセンターや阿寒湖畔エコミュージアムセンターをはじめとする国立公園内の主たる利用拠点においてライター書き下ろしによる多言語表記の充実

●快適な利用環境の創出

利用者目線による案内誘導標識、眺望方向を考慮した休憩施設、エコミュージアムセンター内のコミュニティスペースの整備などによる利用環境の向上

●連携強化

アドベンチャートラベルマーケットへの参入や効果的なプロモーションの実施、2次交通の更なる充実等に向けた関係機関・団体との連携の強化



川湯エコミュージアムセンターの民間開放



オンネトー野営場



アイヌコタン



阿寒エアポートライナー

阿寒摩周	個別目標	2016	2017	2018	2019	2020
		利用者数 5.8	利用者数 5.7			利用者数 15
特徴① 原生的な自然 で過ごす 「上質な時間」	2019年 川湯エコミュージアムセン ター（EMC）併設カフェ本 格開業 2019年 川湯EMCツアーデスク設置 2020年 先行地域での廃屋撤去	 阿寒湖畔エコミュージアムセ ター（EMC）・カフェ導入に 向けたつくりぎ空間造成	阿寒湖畔EMC・コーヒー提供方法の検討 川湯EMC・カフェ導入に 向けた地元調整 川湯温泉地区再整備 計画策定（弟子屈町）	阿寒湖畔EMC・コーヒー等の提供 内部 改装 カフェ試験導入、ツア ーデスク機能試験導入 廃屋ホテル1棟の権利制 限整理・譲渡、撤去計 画・跡地整備策定	カフェ本格導入、 ツアーデスク機能導入 廃屋ホテル1棟の撤去及び園地整備	カフェ本格導入、 ツアーデスク機能強化
特徴② 原生的な 自然の 「新たな活用」	2020年 オンネトー野営場等におけ るガイドツアー、キャンプ 等利用形態の拡充 2019年 環境協力金上乘せマリモ 関連ツアー本格開始 2020年 阿寒湖畔歩道（ポッケ～ 滝口）整備完了	 ファムトリップ  オンネトー地区全体の利用 のあり方について方針策定  和琴半島野営場 グランピング導入可能性検討  マリモの利用のあり方につ いて方針策定  阿寒湖畔歩道（ポッケ～ 滝口）環境調査	ファムトリップ オンネトー地区全体の利用 のあり方について方針策定 和琴半島野営場 グランピング導入可能性検討 マリモの利用のあり方につ いて方針策定 阿寒湖畔歩道（ポッケ～ 滝口）環境調査	ファムトリップやアンケート調査結果等を踏まえたコンテンツ磨き上げ 地元主体の キャンプイベント等の誘致 保全協力金上乘せツア ーの試験開始 阿寒湖畔歩道（ポッケ～ 滝口）基本設計	ツアー等の本格実施及び受入体制の整備 検討結果を踏まえた更なる展開 マリモ関連ツアーの本格実施、保全協力金の生息状況調 査及び普及啓発活動等への活用 阿寒湖畔歩道（ポッケ～ 滝口）実施設計	阿寒湖畔歩道（ポッケ～ 滝口）整備・供用開始
特徴③ 「アイヌ文化」 の体験	2019年 阿寒湖温泉でのアイヌ文化 を基調としたデジタルア ートイベント（ナイトフォ レストミュージアム）開催 2017年 阿寒湖畔EMC展示改修完了	 「アイヌアートまちなかミュージアム」推進 @ 阿寒湖温泉  アイヌ文化を基調とした夜のデジタルアートイベント開催 に向けた地元調整・開催準備 @ 阿寒湖温泉  阿寒湖畔EMC展示改修 （アイヌ展示含む）	「アイヌアートまちなかミュージアム」推進 @ 阿寒湖温泉 アイヌ文化を基調とした夜のデジタルアートイベント開催 に向けた地元調整・開催準備 @ 阿寒湖温泉 阿寒湖畔EMC展示改修 （アイヌ展示含む）	アイヌ文化を基調とした夜のデジタルアートイベント開催 @ 阿寒湖温泉		

十和田八幡平国立公園 満喫プロジェクト

赤字は実施済の取組

みちのくの脊梁

～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場

(数値目標) ～ 外国人利用者数 2015年の3倍(2020年) ～
7千人 → 2.1万人

特徴①

歩いて楽しむ四季の移ろい

山岳を縦走る本格的な登山道から、日帰りで楽しめる登山道まで、原生自然を堪能する多彩な登山道を整備

-  奥入瀬溪流において「**奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト**」や「**奥入瀬エコロードフェスタ**」を実施。
-  ロングトレイル等の多彩な登山道の整備（**岩手山・八幡平・安比高原50kmトレイル整備完了**、南八甲田縦走線の再整備を計画中）。
-  登山道の標識の統一及び多言語化（関係機関と共同で用いる**標識ガイドライン第一版**策定）。
-  十和田信仰を体感するガイド付き限定歩道を計画。

特徴②

長期滞在で温泉・湯治文化を満喫

活発な火山現象を背景とした良好な泉質に恵まれた個性豊かな温泉や旅館で、昔ながらの趣のある温泉文化を楽しむ

-  外国人アドバイザー等を招いて**ファミツアー**を実施。
-  **湯治文化や湯治マナーを紹介する多言語表記パンフレットを作成済み**
-  REVIC※の支援による玉川温泉の再生と連携した魅力向上（**設備改修、バリアフリー化実施済み**）
※地域経済活性化支援機構

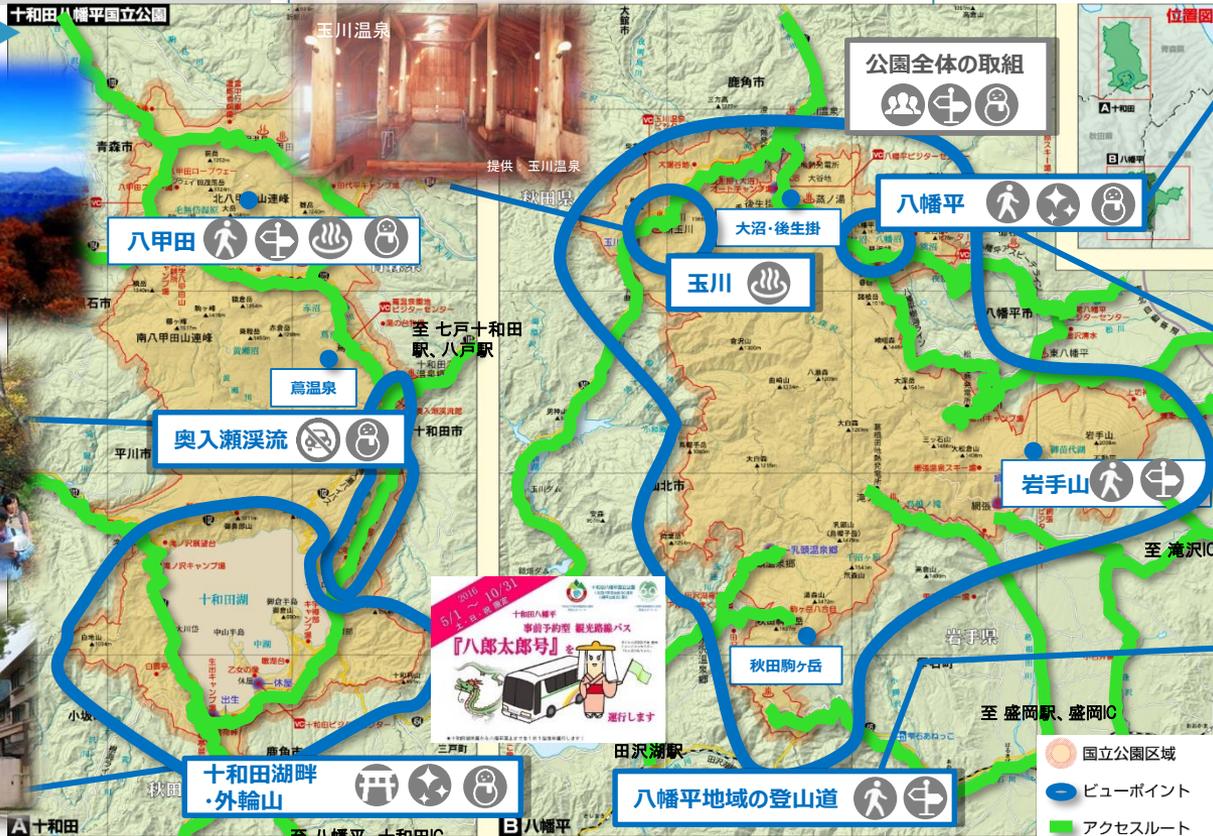
特徴③

国立公園一等地の上質な滞在空間への再生

景観を阻害する施設を撤去する“引き算”の景観改善により、広大な原生林と湖、火山群などの世界に誇る傑出した風景を損なわない、魅力的な利用拠点にリニューアル

-  休屋休平地区の廃屋撤去の加速化に向け、弁護士による支援業務を実施（優先施設の選定など）
-  **見返峠旧レストハウス撤去実施中**、八幡平登山の利用拠点として相応しくするための駐車場等の再整備を計画
-  四季を通じて楽しめるよう冬のアクティビティの充実（**地元ガイド向けの勉強会等**を実施）

ビューポイント



十和田八幡平国立公園 満喫プロジェクト 中間評価

目標の達成状況

訪日外国人利用者数は概ね順調に達成している。

●総評

>利用者数に関しては、年度ごとに誤差はあるものの数字的な目標は達成しており、さらなる質の向上に取り組んでいく。

>引き続き、関係機関が連携してプロモーションの強化や受入環境の整備等、ステップアッププログラムの取組みを着実に進めていく。

※青森県内の訪日外国人宿泊者数が約24万人と、全国一の伸び率を記録した。

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 2.1万人)

2015年	2016年	2017年
0.7万人	→ 2.2万人	→ 1.9万人
(26.7%)	(16.6%)	(19.5%) ※ () は標準誤差

●訪日外国人宿泊者数(外国人実宿泊者数)

※国立公園区域内に含まれている宿泊施設の訪日外国人宿泊者数

2015年	2016年	2017年
11.7万人	→ 13.7万人	→

○質の指標 (※国立公園訪問者アンケート：環境本省より提供)

- 国立公園での訪日外国人旅行消費額
2017年度 外国人観光消費単価 53,663円
- 国立公園周辺外国人平均宿泊日数
2017年度 外国人平均宿泊日数 3.0泊
- 国立公園での外国人リピーター率
2017年度 外国人リピーター率 32.1% (2回目～)
- 満足度
2017年度 滞在全体 (大変満足) 48.1%

これまでの成果

各地区においてハード面（施設面）の整備が実施されるとともに、多言語対応の動画配信やパンフレット作成など、個別取組が着実に進んでいる。

- 受入れ体制の強化のために八甲田ロープウェー駐車場の拡張や山頂展望デッキを整備、利用拠点におけるキャンプ場や公衆トイレの再整備を実施。
- 自然保護と観光等の利活用の両立のために奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト及び奥入瀬溪流エコロードフェスタを実施。
- 二次交通の改善を図るために、十和田湖畔と八幡平山頂を結ぶ観光路線バス（八郎太郎号）、七戸十和田駅と十和田湖畔を結ぶシャトルバスを運行。

加速化・強化が必要な取組

個人旅行者がストレスフリーに周遊できる利用環境

個別取組の進捗等によって、個々の観光地（利用拠点）としての魅力は向上しつつあるが、今後は二次交通の改善を含めた広域的な周遊ネットワークの構築及び加速化・強化が課題であり、引き続き、観光庁や道路部局との連携の強化が必要である。

- 主要交通拠点及び観光拠点において多言語対応及び国立公園の案内誘導を充実させる。
- 標識ガイドライン第一版を参考にデザインの統一や誘導案内の強化を図っていく。
- 上質な滞在空間への再生のために休屋休平地区の廃屋対策を加速させる。



奥入瀬歩道



焼山避難小屋



八幡平見返峠



休屋駅前広場



道の駅おおゆ



十和田八幡平	個別目標	2016	2017	2018	2019	2020
訪日外国人 国立公園 利用者数 (万人)	利用者数 0.7	利用者数 2.2	利用者数 1.9			利用者数 2.1
特徴① 歩いて楽しむ 四季の移ろい	2020年 多彩な登山道の整備 2020年 奥入瀬渓流の自然保護と観 光等の利活用 2019年 十和田信仰を体感するガイ ド付き限定歩道の新設	 	岩手山・八幡平・八幡平・安 比高原50kmトレイルの整備 南八甲田縦走線の設計 奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト・奥入瀬エコロードフェスタ 奥入瀬ビジョン素案 奥入瀬ビジョン策定 十和田信仰体験ガイド仕 組み策定	岩手山・八幡平・八幡平・安 比高原50kmトレイル 維持管理 南八甲田縦走線の整備 旧修験道の設計 新規整備着手	南八甲田縦走線の供用 整備完了、ガイド付き限定利用の開始／環境保全 協力金の徴収	
特徴② 長期滞在で 温泉・湯治 文化を満喫	2019年 具体的なツアーの磨き上げ 2018年 REVICの支援による玉川温 泉の再生	 	【ファムトリップ】 コンテンツの磨き上げ 事業者のレベルアップ 玉川温泉 施設及び設備改修、バリアフリー化工事	コンテンツ集づくり 旅行会社等への提供	商品化・販売力強化等の支援 地域プロモーションの強化 JNTO等と連携した一括情報 サイトの構築、キャンペーン展開	
特徴③ 上質な滞在 空間への再生	2020年 十和田湖畔（休屋休平地 区）の廃屋対策の加速化 2020年 八幡平登山の入口再整備 2020年 冬のアクティビティの充実	 	十和田湖畔の景観等ガイドライン策定 十和田湖畔廃屋撤去の具体的手法検討 見返峠旧レストハウス撤去 見返峠下駐車場 再整備の基本計画 地元ガイド向け勉強会 の実施	所有者等との調整 見返峠下駐車場 再整備の基本設計 地元ガイドのスキルア ップ研修等の実施	廃屋撤去/園地整備 見返峠下駐車場 再整備の実設計 アクティビティの改善及び充実	見返峠下駐車場 再整備・供用